

「流域治水シンポジウムひろしま 2026」の開催結果について

1 要旨・目的

「流域治水」の意識醸成を図るため、住民・事業者の方々が「流域治水」に関わる身近な取組を知り、自分ごととして考えていただくことを目的に、「流域治水シンポジウムひろしま 2026」を開催した。

2 現状・背景

気候変動の影響により、近年、全国各地で水害が激甚化・頻発化しており、本県でも平成30年7月豪雨や令和3年7月・8月豪雨など大規模な浸水被害が発生している。こうした中、水害から地域を守るためには、河川改修等のハード整備に加え、流域全体のあらゆる関係者が協働して水害リスクの軽減に取り組む「流域治水」の重要性が年々高まっており、様々な取組の周知・理解促進を図り、住民や事業者等を含め「流域治水」に取り組む主体を拡大していくことが重要である。

3 概要

(1) 対象者

県民・事業者

(2) 開催日時

令和8年8月3日（月） 13時00分～16時30分

(3) 場所

広島 YMCA 国際文化センター（広島県広島市中区八丁堀7-11）

(4) 実施内容

プログラム	登壇者	肩書・テーマ
概要説明	知事	「広島県における流域治水の推進」
基調講演	中村 晋一郎	名古屋大学 大学院工学研究科土木工学専攻 准教授 「私たちにもできる流域治水」
	勝丸 恭子	気象予報士、防災士、太田川水系・小瀬川水系流域治水大使 「アップデートしよう“令和の防災”」
	坂口 守	呉市立天応学園 校長 「豪雨災害の教訓を日々に根付かせるために」
事例紹介	浦嶋 裕子	MS&ADホールディングス 兼 三井住友海上火災保険 上席スペシャリスト 「自然を理解、親しむことから流域治水を」
	パネルディスカッション	テーマ「流域治水が自分ごとになるきっかけとは」

(5) 開催結果

ア 参加者数

151名

イ 登壇者の主なコメント

- 流域治水の取組は、必ずしも実施した本人に効果が発現するわけではないところが難しいが、上流の人が下流のために「何かしてあげよう」、下流の人が上流の人のやってくれたことに「感謝しよう」といったように、流域が「運命共同体」になることが理想である。
- 学校における防災活動について、振り返りを行うとともに共有の時間を持つことが学びの機会となっており、こうした地道な活動を続けること、また、学んだことを家庭と共有する場面を作るといった重層的な取組を実施すること、が大事である。
- 災害のためだけでなく地域の自然に親しむ中で、平時と有事を分けないフェーズフリーの視点で自分の身の回りを見ることが重要であり、雨庭などの取組により、みんなが治水のためのまちのインフラを作っていくようになれば本当に良いと思う。

4 今後の対応

シンポジウムの内容についてはダイジェスト（5分程度）及び題目毎の動画を配信し、SNSによる発信とともに大学や防災士、教育委員会などへ情報提供するなど、引き続き流域治水の周知・理解促進に向けた広報に努める。

【開催状況写真】



知事による概要説明



中村氏による基調講演



勝丸氏による基調講演



坂口氏による事例紹介



浦嶋氏による事例紹介

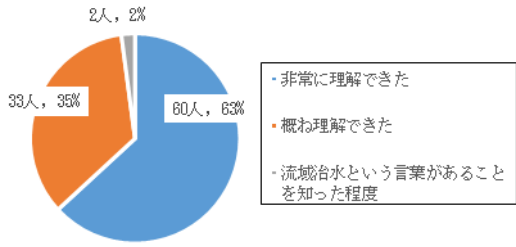
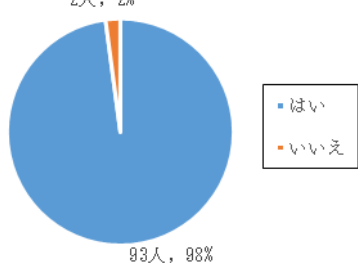
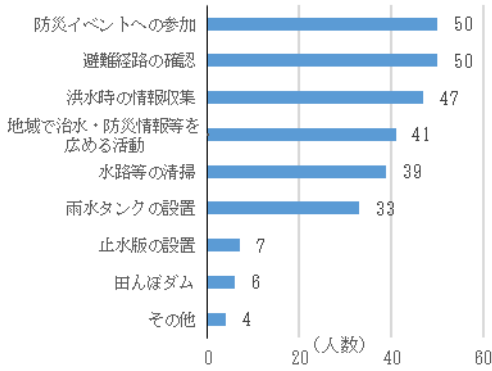
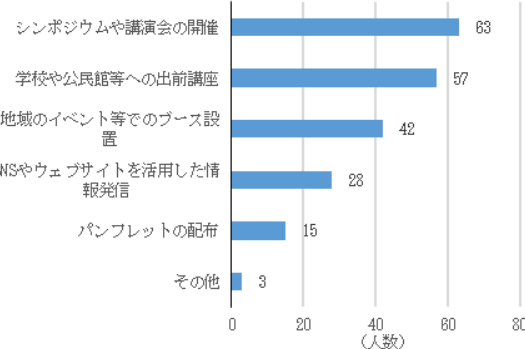


パネルディスカッション



開催概況

【アンケート結果 アンケート回答者数：95名（来場者 151名）】

Q. 今回のシンポジウムに参加して、流域治水についてどの程度理解が深まりましたか？	Q. 今回シンポジウムに参加して、自分にもできそうな「流域治水」「防災」のイメージが湧きましたか？
参加したほぼ全員が理解したと回答  2人, 2% 33人, 35% 80人, 83% ・非常に理解できた ・概ね理解できた ・流域治水という言葉があることを知った程度	参加したほぼ全員が身近な流域治水や防災のイメージを持ったと回答  2人, 2% 93人, 98% ■ はい ■ いいえ
Q. 流域治水や防災について、どのような取組ができると感じましたか？	Q. どのようなイベントであれば参加・関心を持ちやすいですか？
避難経路の確認などの洪水時等に逃げるための準備や、河川の外で身近に取り組める水路清掃、雨水タンクの設置などの対策について、取り組むことができると回答があった。  防災イベントへの参加 50 避難経路の確認 50 洪水時の情報収集 47 地域で治水・防災情報等を広める活動 41 水路等の清掃 39 雨水タンクの設置 33 止水版の設置 7 田んぼダム 8 その他 4 0 20 40 60 (人数)	講演会や出前講座、イベントなどへの要望があった。また、SNSなどを活用した情報発信についても要望があった。  シンポジウムや講演会の開催 63 学校や公民館等への出前講座 57 地域のイベント等でのブース設置 42 SNSやウェブサイトを活用した情報発信 28 パンフレットの配布 15 その他 3 0 20 40 60 80 (人数)
自由意見	
・流域治水の取組は一朝一夕には成し得ないので、継続して取り組む必要があると感じた。 ・地域によって特色のある流域治水の取組や県内の具体的なプロジェクトについて知りたいと思った。流域治水に関連した地域活動の事例を多く紹介してほしい。 ・パネルディスカッションにおいて、いくつか心に残るキーワードがあった。 ・継続することが大事だと思うので、引き続きシンポジウムや講演などを開催してほしい。	